

2 0 2 0 年 度
(自 2 0 2 0 年 4 月 1 日 至 2 0 2 1 年 3 月 3 1 日)
事 業 報 告 書

学校法人 貞静学園

東京都文京区大塚一丁目2番10号

電話 03 (3943) 3711

目 次

I. 学校法人の概要 . . . 1 ～ 2

(ア) 設置する学校・学科等

(イ) 各学校・学科等の収容定員、在籍者数の状況

(ウ) 役員、教職員の状況

II. 事業の概要 . . . 3 ～ 1 5

1. 貞静学園短期大学 ----- 3 ～ 8

2. 貞静学園中学校・高等学校 ----- 9 ～ 1 3

3. 貞静幼稚園 ----- 1 4 ～ 1 5

III. 財務の概要 . . . 1 6 ～ 1 9

1. 貸借対照表の推移

2. 事業活動収支計算書の推移

3. 主な資産等の状況

事業報告書

(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

I. 学校法人の概要

1. 設置する学校・学科等

○学校法人の設立年月日 昭和16（1941）年4月28日

設置する学校	開校年月日	学部・学科等	摘要
貞静学園短期大学	平成21年4月1日 (2009)	保育学科 専攻科介護福祉専攻	
貞静学園高等学校	昭和23年3月10日 (1948)	全日制課程 普通科	
貞静学園中学校	昭和22年4月1日 (1947)		
貞静幼稚園	昭和30年11月25日 (1955)		

2. 各学校・学科等の収容定員、在籍者数の状況

※各年度5月1日現在

学校名	学科	収容 定員数	令和2年度 (2020)	令和元年度 (2019)	平成30年度 (2018)
貞静学園短期大学	保育学科	300人	237人	238人	251人
	専攻科 介護福祉専攻	40人	0人	9人	4人
貞静学園高等学校		900人	469人	507人	528人
貞静学園中学校		150人	31人	23人	24人
貞静幼稚園		105人	141人	141人	140人
計		1,495人	878人	918人	947人

3. 役員、教職員の状況

(1) 役員の状況

2021年3月31日現在

区 分	勤務状況	氏 名	就任年月	適 要
理事長	常 勤	奥 明 子	2013年4月1日	
理 事	常 勤	佐 藤 好 次	2018年4月1日	
理 事	常 勤	笹 川 康 子	2017年6月9日	
理 事	常 勤	神 谷 為 義	2019年10月25日	
理 事	非常勤	飯塚 新太郎	2011年4月25日	
理 事	非常勤	田 邊 純 一	2019年4月1日	
監 事	非常勤	堀之北 重久	2019年4月1日	
監 事	非常勤	久 米 信 之	2019年4月1日	

(2) 学校別の教員数及び職員数

2020年5月1日現在

区 分		法人	短期大学	高等学校	中 学 校	幼 稚 園	計
教 員	本 務	0 人	1 5 人	3 5 人	4 人	1 0 人	6 4 人
	兼 務	0 人	1 4 人	3 6 人	3 2 人	1 人	8 3 人
職 員	本 務	5 人	1 1 人	9 人	2 人	1 人	2 8 人
	兼 務	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人
計		7 人	4 0 人	8 0 人	3 8 人	1 2 人	1 7 1 人

Ⅱ. 事業の概要

1. 貞静学園短期大学

(1) 学生募集の更なる充実・強化

(ア) オープンキャンパスの戦略的展開—第Ⅰ期 4月～6月、第Ⅱ期 7月～8月、第Ⅲ期

9月～10月、第Ⅳ期 11月～12月、第Ⅴ期 1月に分け、期ごとの戦略的対策を実施。

オープンキャンパスの実施タイプを体感型・入試対策型・個別相談型の3タイプに分け、実施。

企画運営委員会による緻密な計画と教授会主導に基づき、全教員と入試・広報課により実施。

〈第Ⅰ期 4月～6月〉の特徴

WEB オープンキャンパスの実施

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令に伴い、対面オープンキャンパス実施が困難となり、急遽 WEB 用動画を作成し、WEB オープンキャンパスとして対応。

計 4 回配信で実施。(視聴者数合計延べ 183 名)

【配信コンテンツ内容】

- ① 体験授業：・WEB 体験授業 ・ピアノレッスン講座 MOVIE 等
- ② 学校説明：・学長メッセージ MOVIE・キャンパスライフ MOVIE・教員紹介 MOVIE
・専攻科介護福祉専攻 MOVIE 等
- ③ 入試説明：受験生・保護者への今年度の情報(スライド+音声形式で作成)
・面接のポイント解説 MOVIE ・総合型選抜対策 MOVIE 等
- ④ 個別相談：メール、LINE、Zoom で迅速に対応する体制を整備

〈第Ⅱ期 7月～8月〉の特徴

来場型オープンキャンパスの再開

7月4日(土)は入試対策型、7月18日(土)は体感型で実施。8/2(日)を追加。

来場型実施の際には新型コロナウイルス感染症対策を徹底。

(延べ生徒数 176 名、保護者数 81 名)

〈第Ⅲ期 9月～10月〉の特徴

来場型オープンキャンパスにミニオープンキャンパス(時間短縮型)を追加開催

【ターゲット】・コロナ禍において、進路選択の材料を集めきれていない層

- ・学校推薦型選抜(指定校制)の受験校を決めきれていない層
- ・他校を受験したが手ごたえがなく不安を抱えている層

【具体策】

- ・平日の学校見学強化 ・WEB コンテンツ・動画コンテンツの強化
- ・9/26、10/3(土曜)に『ミニオープンキャンパス』追加

〈第Ⅳ期 11月～12月〉〈第Ⅴ期 1月〉の特徴

YouTube によるライブ配信型オープンキャンパス実施

緊急事態宣言発令のため来校形式は中止し、YouTube によるライブ配信に変更した。

〈2020 年度来場型オープンキャンパス保育学科参加者数〉

来場形式でのオープンキャンパス参加者 生徒 196 名(前年度比 38%)保護者 90 名

(※2019 年度オープンキャンパス参加者 生徒 513 名⇒受験者 110 名

2018 年度オープンキャンパス参加者 生徒 534 名⇒受験者 136 名)

このほかに WEB オープンキャンパス視聴での参加者

〈専攻科介護福祉専攻の取組〉

2 年生へのガイダンスを実施。介護福祉士の重要性を学生に周知し、専攻科介護福祉専攻への進学意欲を高め、5 名の内部進学者が決まった。

(※2020 年度入学者 0 名)

(イ) 出張授業およびガイダンス、本学実施の体験授業の強化

各高等学校での授業・ガイダンス、バスツアー要望に原則としてすべて対応。専任教員と事務局入試・広報課職員との重複派遣でオープンキャンパス参加への接続をはかる。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、高等学校を会場とした出張授業およびガイダンスの依頼自体が極端に減少し、要請のあった高等学校でのみオンラインでの体験授業・ガイダンスを実施。貞静学園高等学校の体験授業は 8 月に対面で実施することができた。3 月に入り、次年度高校 2、3 年生への出張ガイダンスの依頼が増加。

(ウ) HP の有効活用の充実

画像発信の強化

ブログ記事の更新を頻繁に実施し、学生・キャンパスライフの画像撮影を行い、HP に随時発信することに力を入れた。

(エ) 広報媒体の強化→スマートフォン検索対応システムの導入およびライン・Instagram・Twitter による広報活動の継続、YouTube での動画配信強化

動画投稿の強化

キャンパスライフ、行事、オープンキャンパス、教員紹介、体験授業等、多くの動画を編集・制作し投稿した。また学生による YouTube 制作動画を大学祭の際に発信し、2 万回以上の再生回数を獲得した動画もあり、現在も継続している。貞静学園短期大学の広報に有効な取り組みと考えている。

(オ) 高校訪問・入試の強化、2019 年度に実施した新メソッドによる進学説明会の継続

〈高校訪問〉

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、訪問受入を断る高校が多く、また緊急事態宣言により都県越えの移動制限もあり、電話対応から各高校の現状を慎重に見極めつつ訪問を進めた。特にこれまで入学者が多い等優先度の高い高校には、積極的な連絡を取り対応した。

〈入学試験実施〉

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、受験生に不利益が生じることのないよう、受験機会の確保の措置として、①入試日程の追加 ②選考日の振り替えによる受験、③オンライン面接による受験の各対応方法を設けた。

〈進学説明会〉

コロナ禍により対面形式での実施ができず、動画配信での説明会を実施。

コンテンツ

・コロナ禍の本学の対応について ・現代の保育事情（新型コロナウイルス感染症の影響で、保育現場ではどのような対応が求められたのか）

・在学生の声（インタビュー）等

(カ) 貞静学園短期大学ならではの特色の充実と開拓ならびに広報活動

コロナ禍において十分な広報活動が困難な 1 年間であったが、新たな取り組みとして動画配信等で本学の特色を高校生に発信した。

都内唯一、1 年課程専攻科介護福祉専攻をもつ短期大学として、保育士資格を持つ学生の進学に力を入れた。

(キ) 貞静学園高等学校と本学の間で定期的に会議を行い、高大接続を目指す。

会議を 3 回実施。高大接続をめざして貴重な意見交換をすることができた

(2) 官学連携、地域貢献、公開講座の強化

(ア) 官学連携

- ・文京区との連携事業として「文京区子育てサポーター認定制度のための子育て支援員研修」開催（開発費・企画費・教材費等獲得）。開催回数の増加（2回⇒4回）。

2020年度「文京区子育てサポーター認定制度のための子育て支援員研修」は4回計画されていたが、コロナ禍のため、第2回目のみ人数を制限した中で開催することができた。開発費・企画費・教材費等獲得。文京区の子育て環境充実のための人材育成に関する官学連携事業に貢献。

（2020年度開催日程）2020年9月29日（火）・9月30日（水）

- ・東京オリンピックに向けた各種取り組みへの参加（国・東京都）

東京オリンピック開催日程を考慮した年間授業日程を作成し、各種取り組みへの準備もしていたが、東京都障害者スポーツ大会は中止となり、例年行っていた100名越えのボランティア参加も見送ることとなった。

- ・文京アカデミア講座の実施（文京区）

例年、文京区の外郭団体である公益財団法人文京アカデミーからの依頼で、本学専任教員が、その専門性や研究成果を活かした講座を開講し、多くの文京区在住就学前～小学生の子ども達及びその保護者の教育活動に貢献してきたが、コロナ禍により開催を見送ることとなった。

(イ) 地域貢献事業の拡大

- ・地域のお祭り、大塚警察行事等への積極的ボランティア参加

コロナ禍のため中止となった。

- ・東京都、文京区が開催するイベントへの参加（協力行事多数）

コロナ禍のため中止となった。

- ・校舎貸出（体育館等）、児童館等への出張等

① 文京区内幼稚園児・小学生対象の「ジュニア体操教室」へ毎週火曜日午後、体育館の貸出を継続。

② 文京区との協定による「災害時における妊産婦・乳児の救護所」として、倉庫2か所を非常物資設置場所として提供。2020年度も引き続き定期的に文京区職員が点検・補充・交換等を実施し、救護所機能は継続。

(ウ) 各種公開講座の開講（本学主催）

- ・文京区教育委員会の後援による公開講座開講（文京区小学校教員向け「小学校プログラミング教育実技研修」）

コロナ禍のため中止となった。

- ・「楽しい生け花」、「楽しいフラダンスレッスン」の受講者数が安定的に定着し、コロナ禍においても実施することができた。

楽しい生け花	前期	14名	後期	10名
楽しいフラダンスレッスン	前期	5名	後期	4名

(3) 教育活動ならびにFSD活動による教員と事務職員との連携強化

教員の教育力向上、事務職員の業務能力の向上

(ア) 自己点検・評価活動の継続、研修事業への積極的参加

2020年度実施の「短期大学基準協会による認証評価」を受けるにあたり、所属各委員会も協力して資料をまとめ、自己点検・評価運営委員会のもと自己点検・評価活動を着実に実施した。

2020年度自己点検・評価報告書を完成・提出、10月に短期大学基準協会の認証評価を受け、適格認定を受けた。

教職員共各種研修に参加。教員各自の教育力アップのため、担当教科目との整合性のある研究、論文の執筆等を行った。

(イ) SD活動の活性化（事務職員の専門性の向上）

平成28年大学設置基準等の改正により職員の能力及び資質の向上のため、SD研修が義務づけられ、以来本学でも規程を設けSD活動を活発に実施している。

(ウ) 教員の外部資金獲得による授業内容の充実

2020年度は外部資金獲得の研究課題はなし。

(エ) FSD活動のための教職員合同発表・研究会の実施

- ・基礎力リサーチ結果報告会 2020年9月7日
- ・「学生募集等についての講演・勉強会」進研アド改革支援室・高坂栄一氏
第1回2021年2月25日、第2回2021年3月29日
- ・次年度に向けたオフィス365研修会

(4) 学生指導・支援体制の強化

(ア) 入学予定者のための入学前教育の強化

入学予定者オリエンテーションは、新型コロナウイルス感染症の拡大により短大校舎での実施を予定者在宅での ZOOM オリエンテーションに切り替えて実施した。事前にオリエンテーション使用資料を郵送し、ZOOM 開催としたが、入学予定者はスムーズに ZOOM 参加することができ、入学前の準備を行うことができた。

入学手続き終了者へ免許・資格取得のために必須である基礎学力の向上を支える課題(文章力・読解力・漢字筆記力・紙芝居・日常生活の基本等)を課し、さらに初心者ピアノレッスンも ZOOM で行った。合格後大学入学までのモチベーション向上と入学前教育としての役割を果たした。

(イ) 特待生・奨学生制度、就学支援新制度

入学時特待生制度は募集の際の重要な要因となっている。

また入学後の奨学生制度は学生の学習成果獲得への大きなモチベーションとなっており、本年度は2年生2名、1年生3名の学生に、奨学金が授与された。

就学支援新制度を利用する学生は、2年生16名(13%)、1年生12名(11%)であった。

(ウ) 卒後教育のさらなる展開を図るため、「リカレント教育」実施

コロナ禍のため中止となった。

(エ) 卒後教育のための同窓会との連携強化(図書事業・講演会等)

2020年度は、EXPO TEISEI 開催時に開学以来10年間の卒業生と ZOOM を用いたシンポジウムを実施した。保育学科学生に向けて、専攻科介護福祉専攻の卒業生からのビデオメッセージを見る機会を設けた。

(オ) 学生のボランティア活動充実のための支援体制強化

学生のボランティア活動に対しては、学生委員会を主軸に新型コロナウイルス感染症収束時に直ちに対応できる体制を継続的に審議している。

(カ) 本学独自教科「キャリア教育」の実施、ならびに新教育要領による教科目の実施

今年度も建学の精神に重点を置き、学長講話5回を実施し、学生の学習成果の向上と建学の精神の習得を図った。さらにキャリア教育の中で官・産・学連携を持つ本学独自のカリキュラムを実施した。2020年度は再課程認定完成年度であった。

(キ) 「アセスメントテスト」(基礎学力リサーチテスト) 導入、学生の基礎学力の向上

「アセスメントテスト」を1年生は2回実施(尚同学年は、2年次春に再度実施予定)し、試験実施後、基礎力リサーチ結果報告会を開き、学生の基礎力、今後の学習への問題点の把握を行い、今後の学習成果獲得に活かしている。

(ク) 2020年度事業計画外 追加項目 「コロナ禍における大学からの学生支援」

コロナ禍における学生の学習機会継続に資するため、学生全員に給付金 30,000 円を6月に支給し、さらに日本学生支援機構からの助成金 1,730 円の支援も行った。

(5) グローバル化の推進

(ア) 韓国・釜山にある東洲大学校との国際交流の充実

コロナ禍のため、2020 年度は中止。

(イ) オーストラリア・ゴールドコーストにあるグリフィス大学附属語学学校（幼児教育コース）への短期留学。留学単位化初年度の学習成果の検証、学生支援機構からの留学生奨学金獲得 コロナ禍のため、2020 年度は中止。

(6) 緊急時・災害時に備える

(ア) 防災備蓄（飲料水・非常食・防災用ヘルメット）

防災備蓄用品として簡易トイレおよびウェットティッシュを購入。

(イ) 施設・設備の安全管理（外壁改修工事等）

外壁改修工事は緊急のため、2020 年度は中止し、2021 年度へ延期とした。その他に校舎施設設備の定期点検および修繕改修を実施し、安全管理を行った。

(ウ) その他

新型コロナウイルス感染症対策のため、対面授業登校時に使用する消毒用アルコール、消毒作業用品、アクリル板、マスク等の購入を行った。

また、遠隔授業や学生支援等へ対応するため、外壁改修工事は次年度に延期とし、遠隔授業等に向けた学内 LAN の整備に切り替え、さらに学内サーバの更新および Windows10 対応 PC への更新、Microsoft365 の導入、学内無線 LAN の設置を実施した。（この PC 等の変更に関しては、2020 年 6 月 19 日第 2 回理事会で承認済み。）

2 貞静学園中学校・高等学校

(1) 事業の目標

1. 生徒募集活動の強化
2. 共学の発展
3. グローバル教育の推進
4. キャリア教育
5. 教員の教育力の向上
6. 災害時の備え・施設設備の維持管理
7. 教職員の業務環境整備

(2) 事業の内容

1. 生徒募集活動の強化

	※到達目標	実績	※達成率
中学	20名	15名	75%
高校	200名	168名	84%
合計	220名	183名	83%

計画したこと	実施できたこと
ア) 塾・中学校訪問の強化 イ) HP・YouTube・twitter、学校案内、チラシ、パンフレット、ポスター作成 ウ) 校内外の説明会、体験入学、受験相談会の充実 エ) 媒体による学校認知度の向上	ア) 学校説明会がほぼ実施されない中、インターエデュ社の活用により、塾・中学への訪問を維持できたことは大きな支えとなった イ) YouTubeの活用、デジタル学校説明会、オンライン個別相談など工夫して実施 ウ) 中学の説明会来校者が昨年度計90名に対して今年度は103名に増加 エ) イ) と合わせFaceBookも平行して活用、オンライン個別説明会等、コロナ禍での変化を踏まえた展開を実施

【まとめ】

コロナ禍の中、狙いとしたことが当初の目論見通り実施できる状況にはなかったが、そうした中でも総力戦で臨み、高校の入学歩留まり（合格者に対する入学者の比率）は一昨年183名の入学を得た年を上回ることができた。（51.2%⇒53.3%）

その結果、入学者数138（昨年実績）を168まで回復させることができた。

【次年度への申し送り】

- ・学校全体で『受験生・保護者を迎え入れる雰囲気づくり』に注力することが重要
- ・入学者の確実な増加を果たす…目標設定を確実なラインに置き、年々の増加を狙う
- ・学校や生徒の取り組みや様子を動画により、外部（保護者・卒業生などを含む）に発信。本校に対する望ましいイメージを形成し、ファン・支援者を増やす。
- ・中学…2科試験、1科試験、適性検査型入試、個性発見型入試等、生徒の学力や多様性を尊重した入試をすすめたい
- ・高校…入試基準の検討…A 推薦人数、特進コース・併願優遇入試における第3希望までの認可、第1志望優遇入試を募集要項に明記等、検討したい
- ・コロナ禍での中学、塾への効果的な訪問を今期効果が確認されたインターエデュとの連携により実施する⇒初回訪問をインターエデュ、見込み校へ広報部がフォロー

- ・外部相談会への効果的な対応を検討…広報部による積極参加＋ラウンダー投入
- ・入試広報部メンバーのスキルアップ…プロの訪問スキル研修の受講を検討
- ・TSGの活用…「ロコミサイト」の質問に在校生が積極的に回答することも検討したい
- ・オンライン個別相談、対面型の平日個別相談等、積極展開…ピーク時の待ち時間の誘導が課題⇒入試広報部以外の先生も相談員として参加を検討したい
- ・SNSの活用…FacebookだけでなくLINEの活用も検討したい

2. 共学的发展

※到達目標	※達成度（実績）
大学短大80%以上の維持	大学111名 短大17名 計128名/159名 80.5%
G-MARCH10件	0名
日東駒専・大東亜帝国の進学者増	14名・14名 計28名/128名 21.8%

計画したこと	実施できたこと
ア) 学習指導の充実	ア) 新カリキュラム第1案を12月末に教科主任へ提示 ・教務部としての目標「脱Dランク」を全教員に共有 ・模試の振り返りを教科主任に提示することができた ・学年別の朝学習案を提示することができた。
イ) ICT教育研究の充実	イ) Teamsを用いたICT教育の基盤を作ることができ、ペーパーレスにも貢献することができた。 ・朝学習としてスタディサプリーングリッシュの指導・運用を進めることができた ・教科によってオンライン受験講座を実施することができた ・中学入試でプログラミング分野における個性発見型入試での合格者につながった（体験教室受講者） ・専任・講師ともにiPadを課題配信・提出に利用を始めている
ウ) 生徒の健康安全	ウ) コロナ禍における防災訓練考案～実施、救命救急方法を受講、万に備え、準備ができた
エ) 生徒サポートの充実	エ) スクールメール登下校システムにおける安全確保、非常時の連絡体制の整備のため、タッチ率向上に取り組み、過去最高のタッチ率となった

【その他特記事項】

- ・感染症対策では刻々変化する場面に応じた学校医の見解をクラブ活動・学校生活上のルールとして構築。部長・主任会での迅速な意思決定を得て、生徒の安心・安全を死守した。

【次年度への申し送り】

- ・G-MARCH10目標が現場を苦しめている。中長期の計画を策定の上、取り組むことでステップアップを果たす形としたい
- ・学び直し、幼教コースが数年後にはコアコンピタンスとなるよう上記と合わせ計画策定したい
- ・iPadの活用を教科会で検討し、全教科で活用をすすめる
- ・生徒指導部・進路指導部と連携、iPadの活用方法やルールを随時更新していく
- ・次年度1回目のスタサポの成績をハイスクールオンラインから抽出し、現状を教務・進路ともに把握した上で、Dランクの生徒の割合など共有・検討を開始

- ・朝学習の活用・授業改善等『脱 D ランク』のための取り組みを指導できる体制づくり
- ・中高 6 か年での成果検証に向けて、データ蓄積および分析を進路・教務連携と共同で実施
- ・振り返りを進路指導部・教科主任と連携し、レベルを向上できるようにしていく
- ・私学ネットワークを活用し、生徒一人一人の登下校時の避難場所を把握・準備する
- ・スクールメール等システムの精度を上げ、万一の際に機能できるよう、生徒への更なる意識付けを行っていく。

3. グローバル教育の推進

＜注力点＞ 国籍や生活スタイル、宗教、価値観の多様性に留まらず、物事をどう見るか、どのように分析したり評価したりすることができるかという視点を身につけ自己実現する。

スタディサプリ English の導入・活用、JET による英会話指導により、4 技能対応・英検の合格者数を増やす。

※達成度：

計画したこと	実施できたこと
ア) JETプログラムの活動計画の多様化を促進	ア) 授業、英検対策、ESS部活動
イ) 英検上級クラス取得化の促進	イ) 英検対策講座の実施、Weblio英会話 (教員人件費の範囲で実施)
ウ) 英語体験活動 (ブリティッシュヒルズ・オーストラリア・ニュージーランド)	ウ) コロナウイルス感染防止のため中止 結果、事業支出は0円

4. キャリア教育

<注力点>

- ・上級生による進学に向けた「体系的・実践的」や「基礎的・汎用的」情報の提供、及び社会人による高校段階での学びや進学に関連する情報に触れさせる。
- ・コース別ステップアップ（学校における基礎的、発展的な情報提供）を図る。
- ・新入試に向けた進路情報の収集、共有、発信力の強化
- ・コース長と連携し、キャリア教育を充実させる。
- ・各教科と連携し、入試に向けた生徒に対する指導体制の確立。

※達成度：

計画したこと	実施できたこと
ア) 社会人講話・進路講演会	ア) 7月に予定していたが、コロナの影響で中止となった。 理由：あくまでも対面での実施を前提に考えたとき、大勢を一か所に集めることになる、密になる、外部講師との接触を控えるなどの理由から、やむを得ず中止とした。また、休校や短縮、分散登校における授業数の確保を優先した
イ) 志望理由書・小論文面接対策講座	イ) 志望理由書：11月に学研の講師を招いて講演会を実施。学年を分散しての実施も検討したが、感染状況が下火だったため、高校2年全員で実施。 小論文講座：6月学校再開以降、年間予定を組んで各学年の国語担当者による講義を実施したが、例年の回数よりは減少となった。 面接対策講座：高校3年7月実施の講座については、中止。理由はア)に同じ。高校2年3月実施の講座は修学旅行が3月に延期になったことで日程が調整できず、令和3年度4月に持ち越した。
ウ) 総合的な探究の時間宿泊体験の充実	ウ) 2学期より本格実施となった。高校2年生は修学旅行と絡めた探究活動を行っていたが、修学旅行中止に伴い進路に向けた活動に切り替え。高校1年生は「働く」「学ぶ」をテーマに、講義＋まとめ＋発表を行った。
エ) コース交流会	エ) ア)と同じ理由から中止
オ) 受験情報の収集・分析	オ) 令和2年度は、河合塾、駿台・ベネッセ、東進主催の受験動向や分析が全てオンラインでの実施となり、通常は参加人数に制限があるところ、任意参加が可能となった。その他、各大学の教員対象の説明会等も同様にオンライン参加が可能となった。それらの情報を集約し、先生方へ周知、活用。ベネッセの学内模試については、データ共有できるように作成、活用した

5. 教員の教育力向上

<注力点>

新指導要領の趣旨を踏まえ学習指導力、授業力を向上させる。更に、分掌を通じて「学校運営力」「外部との連携・折衝力」「生徒指導力」「進路指導力」を高めていく。

※達成度：

計画したこと	実施できたこと
ア) 各種研修会参加	ア) 各種予備校の研修会は、オンライン実施により、例年通りの参加が可能となった。
イ) 教員評価の実施（継続）	イ) 例年と時期は異なったが、代々木ゼミナール・授業アンケートの実施ができた。

6. 災害時の備え・施設設備の維持管理

計画したこと（※到達目標）	実施できたこと（※達成度）
ア) 耐震対策（落下・転倒防止等処置）	ア) 第一体育館天井耐震化工事 / 中学と3階教室に生徒用ロッカー更新時に転倒防止処置を実施（4・5階は2021年度） / ピアノ転倒防止対策を実施
イ) 防災備蓄品と装備の充実	イ) 新入生用サバイバル3の内容品が確保できず、一部別納形態としながらも例年通り確保 教員用ヘルメットを新たに購入
ウ) 救急救命・防犯への対応力強化	ウ) 新任教員対象に日章警備・救命救急講習を受講
エ) 省エネ設備導入（LED照明化）	エ) 照明設備のLED化工事（主に常時使用教室）
オ) 定期的メンテナンス→（特に緊急性の高い設備や電気機器から行う）	オ) 職員室内照明等集中監視盤不具合による更新工事 / 調理室給湯器不具合による更新工事 / 厨房及び調理室系統排気ファン・Vベルト劣化による交換工事 / 防災監視盤予備電源不具合による交換工事
カ) 情報セキュリティ対策の強化	カ) コロナ生徒補助金捻出のため、事業実施を次年度に持ち越し

7. 教職員の業務環境整備

※達成度：

計画したこと	実施できたこと（達成度）
ア) 教職員支援	ア・イ) 本来狙いとしていた内容についての実績は校長退職により不明。結果として退職教員の補填に予算を活用した
イ) 業務・作業の効率化	

3. 幼稚園

(1) 園児募集活動の充実

(ア) 見学会・入園説明会の充実

・見学会	参加者数	受験者数	入園者数	
2019 年度	4 0 名	2 0 名	9 名	
2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の為見学会は中止した。				
・入園説明会	参加者数	受験者数	入園者数	
2019 年度	9 6 名	5 9 名	3 2 名	
2020 年度	7 5 名	3 8 名	2 4 名	
・入園考査	募集定員	応募者数	合格者数	入園者数
2019 年度	4 0 名	8 0 名	6 1 名	4 6 名
2020 年度	4 0 名	7 0 名	5 9 名	4 6 名

(イ) ホームページによる園だよりの充実

行事があるごとに保育活動を年間 41 回ホームページに掲載した。作成は教員で分担し、様々な角度から園児の目線で表現し、在園児の保護者や入園希望者に伝えた。
新型コロナウイルスの影響で、4・5 月が休園となり、行事も中止や変更となったため掲載回数は例年より減少した。

(2) 保育力の強化

(ア) 研修会への積極的な参加

本年は、都私幼連主催の研修会にオンラインでの参加を行った。
参加後は、研修内容を教員で共有し、保育力の向上に取り組んだ。

(イ) 園内研修の充実

講師を招いて、リトミック、絵画指導の研修を行った。また、文京区教育センターの方に園児の巡回指導にお越しいただき、園児の情報交換や助言を頂き指導に生かした。

(3) 保育の充実と保育環境の整備

(ア) キッズ英語の実施

(株) シェーンコーポレーションに外国人講師の派遣を依頼し、課内は 9 月より 17 回レッスンをを行った。課外レッスンは中止した。
楽しく英語に触れ、ネイティブの発音に接することが出来、保護者から好評を得ている。

(イ) 体操教室・サッカー教室・パズル教室の実施

体操教室は中止した。
年長組でサッカー教室、パズル教室を実施した。

(ウ) 図書の購入

園児が絵本や物語に親しみ、言葉を獲得できる環境を保育室に作るために、図書の購入を行った。図書の選定は、担任教員が園児の発達状況を考慮して行い、購入した。

(エ) 運動用具の購入

園児の体力増進、運動能力向上のために運動用具を購入し、保育指導に活用した。

(オ) コピー機の購入

カラーコピー機の導入により、保育教材の作成や事務処理に活用した。

(4) 災害時の備えの強化

(ア) 避難訓練充実

火災、地震、に対応しての避難訓練を行った。

各回とも園児は真剣にスムーズに訓練を行うことが出来た。

(イ) 安全点検の充実

遊具、保育室の安全点検については、朝の清掃時に実施した。

施設の安全点検についても毎日実施した。

(ウ) 発電機・蓄電池の購入

ガソリンエンジンで発電する発電機とソーラーパネル、蓄電池、照明機を購入し、非常時の停電に備える対策を行った。

Ⅲ. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位: 円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
固定資産	6,141,401,731	6,063,940,146	5,991,672,010	5,898,975,280	5,868,122,961
流動資産	835,806,576	749,688,564	720,167,625	676,671,082	712,483,729
資産の部合計	6,977,208,307	6,813,628,710	6,711,839,635	6,575,646,362	6,580,606,690
固定負債	49,689,876	46,793,898	44,041,693	42,716,640	42,070,995
流動負債	426,507,538	363,267,080	342,180,231	342,764,898	328,926,969
負債の部合計	476,197,414	410,060,978	386,221,924	385,481,538	370,997,964
基本金	7,743,646,781	7,740,690,919	7,710,966,146	7,657,867,772	7,703,505,128
繰越収支差額	△ 1,242,635,888	△ 1,337,123,187	△ 1,385,348,435	△ 1,467,702,948	△ 1,493,896,402
純資産の部合計	6,501,010,893	6,403,567,732	6,325,617,711	6,190,164,824	6,209,608,726
負債及び純資産の部合計	6,977,208,307	6,813,628,710	6,711,839,635	6,575,646,362	6,580,606,690

イ) 財務比率の経年比較

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
運用資産余裕比率	162.23%	171.39%	176.44%	168.14%	182.56%
流動比率	195.97%	206.37%	210.46%	197.42%	216.61%
総負債比率	6.83%	6.02%	5.75%	5.86%	5.64%
前受金保有率	299.32%	306.51%	289.19%	288.64%	341.12%
基本金比率	99.98%	100.00%	100.00%	100.00%	99.92%
積立率	70.20%	68.96%	67.34%	64.24%	63.66%

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位: 円)

収入の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学生生徒等納付金収入	744,626,450	674,505,300	660,654,200	666,653,550	668,451,500
手数料収入	13,785,910	13,118,360	14,134,610	12,906,390	12,306,220
寄付金収入	8,389,468	3,926,089	6,065,620	6,373,627	7,012,880
補助金収入	429,211,305	434,267,544	422,134,682	433,031,748	456,941,483
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	7,087,155	7,148,746	6,317,106	5,712,299	2,784,390
受取利息・配当金収入	2,084,736	1,357,427	1,355,002	1,354,919	1,354,637
雑収入	49,107,900	33,492,947	50,387,529	45,920,027	20,731,957
借入金等収入	1,800,000	800,000	400,000	200,000	400,000
前受金収入	223,562,500	221,660,500	226,779,000	201,397,000	180,202,000
その他の収入	95,783,302	137,117,748	52,498,899	62,498,608	91,071,690
資金収入調整勘定	△ 289,680,833	△ 251,847,499	△ 257,225,671	△ 280,569,036	△ 236,819,636
前年度繰越支払資金	661,008,029	669,157,160	679,407,192	655,828,200	581,309,393
収入の部合計	1,946,765,922	1,944,704,322	1,862,908,169	1,811,307,332	1,785,746,514

支出の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
人件費支出	894,695,155	843,941,368	840,257,051	838,387,615	773,712,055
教育研究経費支出	186,703,368	189,968,744	186,856,913	210,432,852	195,663,005
管理経費支出	53,136,092	60,941,510	57,704,492	61,775,560	53,282,165
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	1,600,000	1,400,000	1,000,000	1,800,000	800,000
施設関係支出	40,832,719	65,369,698	54,979,342	97,280,176	64,211,306
設備関係支出	13,590,852	33,301,292	30,706,182	9,281,281	34,531,730
資産運用支出	57,268,082	10,201,622	6,298,946	9,352,783	8,349,189
その他の支出	106,233,816	122,407,614	76,659,944	62,613,333	82,776,142
資金支出調整勘定	△ 76,451,322	△ 62,234,718	△ 47,382,901	△ 60,925,661	△ 42,284,295
翌年度繰越支払資金	669,157,160	679,407,192	655,828,200	581,309,393	614,705,217
支出の部合計	1,946,765,922	1,944,704,322	1,862,908,169	1,811,307,332	1,785,746,514

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位: 円)

科 目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	1,245,919,074	1,157,103,687	1,153,431,747	1,154,516,641	1,114,844,480
教育活動資金支出計	1,134,518,475	1,094,761,672	1,084,818,456	1,110,596,027	1,022,654,525
差引	111,400,599	62,342,015	68,613,291	43,920,614	92,189,955
調整勘定等	△ 21,052,837	76,026	△ 14,956,347	△ 19,221,409	△ 23,059,242
教育活動資金収支差額	90,347,762	62,418,041	53,656,944	24,699,205	69,130,713
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	2,861,318	9,125,039	6,262,000	15,896,000	53,383,950
施設整備等活動資金支出計	104,423,571	98,670,990	85,685,524	106,561,457	98,743,036
差引	△ 101,562,253	△ 89,545,951	△ 79,423,524	△ 90,665,457	△ 45,359,086
調整勘定等	22,063,245	300,551	△ 2,161,564	△ 13,331,049	1,730,312
施設整備等活動資金収支差額	△ 79,499,008	△ 89,245,400	△ 81,585,088	△ 103,996,506	△ 43,628,774
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	10,848,754	△ 26,827,359	△ 27,928,144	△ 79,297,301	25,501,939
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	71,120,853	95,779,602	25,968,902	28,673,356	39,036,291
その他の活動資金支出計	73,820,476	58,702,211	21,619,750	23,894,862	31,142,406
差引	△ 2,699,623	37,077,391	4,349,152	4,778,494	7,893,885
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 2,699,623	37,077,391	4,349,152	4,778,494	7,893,885
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	8,149,131	10,250,032	△ 23,578,992	△ 74,518,807	33,395,824
前年度繰越支払資金	661,008,029	669,157,160	679,407,192	655,828,200	581,309,393
翌年度繰越支払資金	669,157,160	679,407,192	655,828,200	581,309,393	614,705,217

ウ) 財務比率の経年比較

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動資金収支差額比率	7.25%	5.39%	4.65%	2.14%	6.20%

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:円)

	科目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	744,626,450	674,505,300	660,654,200	666,653,550	668,451,500
	手数料	13,785,910	13,118,360	14,134,610	12,906,390	12,306,220
	寄付金	6,968,150	3,287,050	5,585,620	6,504,307	6,927,334
	経常費等補助金	427,771,305	425,781,544	416,372,682	417,135,748	404,157,483
	付随事業収入	7,087,155	7,148,746	6,317,106	5,712,299	2,784,390
	雑収入	6,672,896	10,720,974	11,570,673	14,989,353	13,524,445
	教育活動収入計	1,206,911,866	1,134,561,974	1,114,634,891	1,123,901,647	1,108,151,372
	事業活動支出の部					
	人件費	849,555,358	818,603,677	799,207,990	805,956,888	764,898,898
	教育研究経費	356,179,278	350,781,991	333,057,806	332,377,702	315,168,228
	管理経費	73,981,740	73,826,899	69,200,948	71,670,032	63,065,091
	徴収不能額等	19,651,043	201,710	0	0	0
	教育活動支出計	1,299,367,419	1,243,414,277	1,201,466,744	1,210,004,622	1,143,132,217
	教育活動収支差額	△ 92,455,553	△ 108,852,303	△ 86,831,853	△ 86,102,975	△ 34,980,845
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	2,084,736	1,357,427	1,355,002	1,354,919	1,354,637
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	2,084,736	1,357,427	1,355,002	1,354,919	1,354,637
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
特別収支	教育活動外収支差額	2,084,736	1,357,427	1,355,002	1,354,919	1,354,637
	経常収支差額	△ 90,370,817	△ 107,494,876	△ 85,476,851	△ 84,748,056	△ 33,626,208
	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	6,601,366	10,223,696	7,677,033	24,156,579	53,905,032
	特別収入計	6,601,366	10,223,696	7,677,033	24,156,579	53,905,032
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	92,632	82,031	150,203	74,861,410	832,222
	その他の特別支出	16,140	89,950	0	0	2,700
	特別支出計	108,772	171,981	150,203	74,861,410	834,922
	特別収支差額	6,492,594	10,051,715	7,526,830	△ 50,704,831	53,070,110
	基本金組入前当年度収支差額	△ 83,878,223	△ 97,443,161	△ 77,950,021	△ 135,452,887	19,443,902
	基本金組入額合計	△ 47,071,608	0	0	0	△ 45,637,356
	当年度収支差額	△ 130,949,831	△ 97,443,161	△ 77,950,021	△ 135,452,887	△ 26,193,454
	前年度繰越収支差額	△ 1,111,686,057	△ 1,242,635,888	△ 1,337,123,187	△ 1,385,348,435	△ 1,467,702,948
	基本金取崩額	0	2,955,862	29,724,773	53,098,374	0
	翌年度繰越収支差額	△ 1,242,635,888	△ 1,337,123,187	△ 1,385,348,435	△ 1,467,702,948	△ 1,493,896,402
(参考)						
事業活動収入計		1,215,597,968	1,146,143,097	1,123,666,926	1,149,413,145	1,163,411,041
事業活動支出計		1,299,476,191	1,243,586,258	1,201,616,947	1,284,866,032	1,143,967,139

イ) 財務比率の経年比較

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
人件費比率	70.27%	72.07%	71.61%	71.62%	68.94%
教育研究経費比率	29.46%	30.88%	29.84%	29.54%	28.41%
管理経費比率	6.12%	6.50%	6.20%	6.37%	5.68%
事業活動収支差額比率	△6.90%	△8.50%	△6.94%	△11.78%	1.67%
学生生徒等納付金比率	61.59%	59.38%	59.20%	59.24%	60.25%
経常収支差額比率	△7.47%	△9.46%	△7.66%	△7.53%	△3.03%

(2) 主な資産等の状況

1. 施設設備の状況

当法人の校地は、東京都文京区大塚、東京都文京区小日向、茨城県取手市に所有している。また、校舎は東京都文京区大塚に中学校・高等学校並びに幼稚園、東京都文京区小日向に短期大学校舎を所有している。

2. 決算日後に生じた学校法人の状況に関する重要な事実

特になし